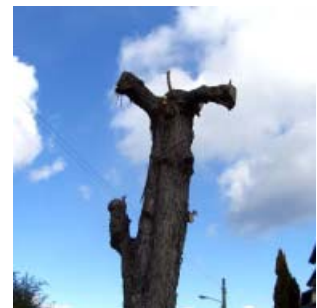


今はオールドタウンとなってしまったニュータウンに、ひときわ異彩を放つトーテムポール？列柱？ 現代アートのオブジェかと思紛うような哀れな姿の正体は、街路樹として30年前に植えられた「ナンキンハゼ」でした。

ここまでやるかと言った強烈な剪定に、思わずカメラを向けました。より悲惨な写真をと撮り続けている内に、切り口の微妙な表情が妙にユーモラスにさえ感じてしまうのです。



実は昨年、この様子に気がついていましたが、写真を撮り損ねている内に、5月には立派に新緑が目を吹き、残念にもシャッターチャンス逃してしまいました。そんな経緯もあり一年ぶりの取材でした。

秋には紅葉がとてもきれいですが、落葉が沿道の人から好ましく思われていないのか、毎年落葉を前にこんな姿になってしまうようです。



ちなみに隣の街区のクスノキは冬もこんなに元気です。

今後、定期的に写真を撮り若葉の茂っていく様子をお届けしたいと思います。

■ナンキンハゼ(トウダイグサ科)



ナンキンハゼはトウダイグサ科シラキ属の木で、新緑や紅葉が美しいので、公園や街路に植栽されています。

和名ナンキンハゼは、江戸時代に中国から渡来したといわれており種子からロウがとれるのでハゼノキにたとえられたものです。

南京(ナンキン)とは、中国の都市名ですが、めずらしいものや小さく愛らしいもの、またカボチャの意味もあります。(京都府ホームページから引用)



本来は、・・・